

講義名	対)課題演習(経営管理)			授業形態	
担当教員	潘 志仁	開講期・曜日・時限	前期 金曜日 5時限		
		単位数	2	履修開始年次	1年生

主題と概要

本演習では修士論文の完成を念頭に、受講生が各自の研究テーマを選んで、テーマ設定から、問題意識の絞り方、先行研究の仕方、分析フレームワークの提示、仮説の検証、結論のまとめ方まで実証研究のあり方を中心に指導する。
 演習前半では、受講生が教科書にそって、与えられる章を発表してもらい、それをもとにディスカッションを行う。演習後半では、受講生が、好きで関心のあるテーマについてプレゼンテーションを行ってもらう。

到達目標

よい研究とはなにかを理解できる。
 実証研究の方法を習得できる。
 研究におけるなつ道を防止するための研究倫理の重要性を認識できる。

提出課題

発表者はレジュメを作成し、全員に配布する

課題(レポートや小テスト等)に対するフィードバックの方法

【受講生の発表や報告につきましては、講評・解説を行います。

評価の基準

発表40点
 レポート40点
 授業へのコミットメント(発言・質問・質疑応答)(20点)

履修にあたっての注意・助言他

授業開始15分後の入室は禁止とする(交通機関の遅延による証明書を提出を除く)。
 欠席が5回以上の学生、授業中の愚痴りをする学生、または遅刻が5回以上の学生には、受講を遠慮願う。
 受講生は各自、教科書を購入してください。

教科書

・創造的論文の書き方。	伊丹敬之	有斐閣	1,800円		
-------------	------	-----	--------	--	--

参考図書

その他

講義中に適宜に指示する。

授業計画

1. 本演習のねらいと講義の進め方、研究とはなにか
2. テーマをきめる、いいテーマとはなにか
3. 論文の中核-仮説と証拠
4. 三つの証拠、三つの説得法
5. 文章に表現する
6. 論文のまとめ方
7. 注釈と参考文献
8. 受講生によるプレゼンテーション
9. 受講生によるプレゼンテーション
10. 受講生によるプレゼンテーション
11. 受講生によるプレゼンテーション
12. 受講生によるプレゼンテーション
13. 受講生によるプレゼンテーション
14. 受講生によるプレゼンテーション
15. 評価

授業形態(アクティブ・ラーニング)

<input type="checkbox"/> A: PBL(課題解決型学習)	<input type="checkbox"/> I: 反転授業(知識習得の要素を授業外に済ませ、知識確認等の要素を教室で行う授業形態)
<input type="radio"/> W: ディスカッション、ディベート	<input type="checkbox"/> E: グループワーク
<input type="checkbox"/> O: プレゼンテーション	<input type="checkbox"/> K: 実習、フィールドワーク
<input type="checkbox"/> K: その他(A・L型であるけども、以上の項目のいずれにも該当しない場合)	

準備学修(予習・復習等)の具体的な内容及びそれに必要な時間

各回の講義資料を読み込むには、すくなくとも48時間の予習が必要とされます。事前に教科書を読んで、「わからない」、「おかしいなあ」、「ほんとうにそうなのか」などを明記して、授業中に質問する。各回の授業内容に対する理解をさらに深めるには、48時間の復習が必要となる。「なにが分かったか」、「まだわかっていない」をもう一度おさえてみる。教科書を読み込むことはとても重要となる。

卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目の関連

本演習は、本学ディプロマ が掲げる論理的思考力をもった人材育成に資するをを視野に入れて、講義内容を進める。

双方向授業の実施及びICTの活用に関する記述

実務経験の有無及び活用

本事業は原則的に対面で行いますが、通学困難者むけに別途オンライン授業を行います。オンライン授業の時間につきましては、履修者との相談のうえ、決めます。

備考
